「学び」イベント情報 募集中!!

Web版は随時更新。紙版次号向けには
9月上旬までに情報をお寄せください。

掲載料は無料です。

9 SEP

復興大学県民講座
復興の経済学：東日本大震災後の宮城県内都市の経済活動 ―域内生産とエネルギーを中心に―（オンライン講座）

9月26日(土)
16:00▶17:00
無料　要申込

講　師　小祝　慶紀（東北工業大学）

場所　オンライン開講

主催者　学都仙台コンソーシアム復興大学部会　問合先　TEL 022-305-3818

◇◇

コロナ禍の今、久保順也先生からコメントをいただきました。
「学びの庭におじゃまします」再録記事と合わせご覧ください。

◇◇

―長期の休校期間は子どもたちの心にどのような影響を与えたと考えられるでしょうか。

今回の突然の休校措置は、感染対策として仕方がないことではあるものの、その理不尽さに怒りを感じたり無力感を感じたりした子も多かったのではないかと思います。これは東日本大震災の時の、地震や津波、原発関連被害といった災害によって突然日常生活を奪われ、なすすべもなく現状を受け入れるしかなかった体験に似ています。そして子どもたちは、今回の休校措置も仕方がないことだと分かっているからこそ、怒りの向け先がなくて抱えこむことしかできません。震災の時も、悩んでいる親の姿を見て、自分自身のしんどさを隠してしまう子が数多く見られました。いじめ問題もそうですが、子どもは周りの大人に負担をかけたくないと考えて、悩んでいてもそれを打ち明けてくれないことがあります。

一方で、休校で氣持ちが軽くなった子たちもいます。ふだん学校に行くことが辛い子たちは、心の重荷である通学から解放されて楽になったのではないでしょうか。ただし6月に入って学校が再開され、部活や行事も返上となり急ピッチで動き始めた学校生活に戸惑ったり疲れを感じたりする子も今後増加するでしょう。

―周囲の大人として、そんな子どもたちに対する心のケアの注意点にはどのようなことがあるでしょうか。

当たり前のこととして、疲れたら休むということが必要だと思います。大人でも、休みなく働いていたら心や体を壊してしまいます。子どもならなおさらです。休校明けの学校生活は忙しく、例年以上に子どもたちは頑張っていて、疲れがたまっていることを意識しておくべきです。

また子どもたちは、楽しみにしていた部活や行事が中止となり、日常生活でも我慢を強いられてフラストレーションもたまっています。大人は、こうした子どもたちの抱える不満に耳を傾け、共感しながら解決策を一緒に考えていく必要があります。子どもたちがリラックスしたり発散したりできるイベントを子どもと一緒に考えて、家庭で実施できると良いでしょう。

テレビゲーム大会や料理作り、室内キャンプなど、家の中だからこそできることを、家族で楽しみながら取り組めると良いですね。

第50回 名著への旅

『日本史の謎は「地形」で解ける【環境・民族篇】』

竹村 公太郎 著
PHP文庫

（2014年7月17日初版発行）

ふとしたキッカケから、青空文庫で柳田國男の『地名の研究』を読んだことが機縁となり出逢った本である。地形と地名は切っても切れない関係にあるからであろう。「『地形』で解ける」シリーズ3部作の最後である。

著者は、1970年に東北大学大学院（土木工学）を修了し、建設省（当時）に入り河川局長等を歴任し、現在は日本水フォーラム事務局長を務めておられる。

日本の歴史・民族性を「地形」という視点から見直し、専門の知識と経験から展開されるストーリーはまことにユニークで説得力に富み、目が開かされることの連続である。その好個の例を挙げると、第7章で、「治水」の考え方について、江戸時代と明治新政～現代では捉え方が180度違っていることを紹介し、その比較図が掲載されている。また、「谷地」という湿地を表わす地名が今も広く残っているごとく、生命線である稲作と湿地帯との闘いの歴史が第2章で述べられ、「胸まで浸かって」した過酷な田植えの写真が載せられている。それぞれ一見の価値ある資料である。身近なところでは、仙台に下宿されていたこともあってか、宮城県大崎市田尻の「冬みず田んぼ」や伊豆沼・蕪栗沼の話があり、親近感も出て来る。

終章となる「第18章　なぜ日本は『100年後の未来』にも希望があるか」では、人口問題・エネルギー・ロボットについての論考が、「『この時代』に生かされた幸運」に向かって、我々が抱える「不安」と向き合う際の視座を与えてくれる。（曜）

「文字・活字文化の日」企画展

第16回 文字・活字とのふれあいDay

お問い合わせ
022-288-5555
sasaki@sasappa.co.jp

オンライン開催のお知らせ

笹氣出版印刷株式会社では毎年「文字・活字文化の日」にちなみ、皆様に広く文字・活字や印刷のことにふれていただけるイベントを開催しておりました。今年は新型コロナウイルス感染予防のために、弊社にお集まりいただくイベントとしては開催せず、オンライン上でお楽しみいただけるコンテンツを準備しております。ご期待ください！

2020年10月23日（金）公開

学びの庭におじゃまします

次号テーマ：**「児童文字」**

2020年10月5日発行予定

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先／問い合わせ先

〒984-0011　仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
（FAXは24時間受付　電話受付時間10:00～16:00 土・日・祝日除く）
manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第49号／発行日2020年7月15日
企画・編集　「まなびのめ」編集部／発行　笹氣出版印刷株式会社

「まなびのめ」編集部　川又進　佐藤曜　菅野麻実　三上志穂　庄司真希
オブザーバー：笹氣義幸　寺田征也（明星大学）

協力：株式会社市瀬　有限会社阿部正志製本

©笹氣出版印刷株式会社　無断で複写、複製、転載することを禁じます。

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙はFSC®認証材および管理原材料から作られている紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

GREEN PRINTING JFPI P-810004　FSC MIX Paper from responsible sources FSC® C005944　VEGETABLE OIL INK　UD FONT

ご自由にお持ち帰りください。
TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付クイズあります
詳しくは中面へ

仙台市情報・産業プラザ　学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

季刊誌 2020. 7　第49号

学びの庭におじゃまします

再録プラス

社会の変化に見合った新しい教育を

東北学院大学　教養学部　准教授（現・文学部教育学科　教授）
（教育工学・情報教育）
稲垣　忠 先生
（2013.4.　第20号より）

いじめを臨床心理学で考える

宮城教育大学　教育学部　准教授
（臨床心理学）
久保　順也 先生
（2017.10.　第38号より）

行ってみよう！「学び」の場所へ

- これからの主な「学び」イベント **20件** 掲載！
- 「学び」イベント に行ってきました
- 名著への旅 『日本史の謎は「地形」で解ける【環境・民族篇】』（竹村 公太郎）
- Voice Park

ISO 14001　JQA-EM4031

Web版 随時更新中！　まなびのめ　http://manabinome.com/

発行／笹氣出版印刷株式会社

◇◇

コロナ禍の今、稲垣忠先生からコメントをいただきました。
「学びの庭におじゃまします」再録記事と合わせご覧ください。

◇◇

―学校での ICT 化はその後どのように進展していますか？

7年前と大きく違うのは、ICT が教師の指導の道具から、子どもの学びを支える学習環境へと移行がはじまったことです。タブレットを使った家庭学習向けの教材や、スマートフォンで授業の動画を見られるサービスが普及しました。「学校にないから (ICT を) 使わない」ではなく、「学校にはないけど子どもたちは使っている」のです。

少子化が進むのに不登校の子どもたちが増えていることや通信制の高校が伸びていることなど、従来の学校の枠組みが揺らぎつつある中、ICT は学びの基盤として新たな役割を果たそうとしています。2019 年 12 月には文部科学省から「GIGA スクール構想」が打ち出されました。全国の小中学生に 1 人 1 台、PC 等の端末を整備し、「個別最適化された学び」の実現が目指されています。端末整備だけでなく、授業観・学習観、さらには教師や学校の役割の転換へとつながる大事業がはじまっています。

当初は 2023 年度までに端末を整備するとされましたが、コロナ禍への対応として 2020 年度内の整備へと前倒しされ、各地の教育委員会が整備に奔走しています。やや急ぎ足すぎる懸念もありますが、大きな環境変化に対し、学校教育の存在価値を賭けたパラダイム転換が迫られていると言えるでしょう。

―今後のオンライン授業対応への展望と課題は？

本学では５月の連休明けから全面的にオンライン授業を実施しました。ウェブ会議サービス等を使って時間割通りにリアルタイムで行う授業と、動画や教材を準備して学生が任意の時間で授業を受けられるオンデマンド型とを科目によって選択して実施しています。小中学校においても休校期間中に一部でオンラインでの朝の会や双方向型の授業、動画配信等が試みられました。

大学ではオンライン授業を維持していますが、多くの小中高校では対面授業を再開しました。しかし、今後の第二波、第三波への備えを考えると、ちょっとおさまったからといって安易にオンライン授業を止めて全面対面形式とするのはリスクがあります。また、オンデマンドでは理解できるまで繰り返し視聴できるなど、対面にはないメリットもあります。授業・授業外・家庭のいつどこで、何を、どのように学ぶのかを状況に応じて柔軟に切り替えられるハイブリッドな学習環境を維持しておくべきでしょう。

オンライン授業は、教員個人の創意工夫としての実践から、学びのインフラをいかに保障するかという観点から、教育委員会を中心に地域全体で取り組むべき段階に入っています。これから進む GIGA スクールによる端末整備は大きな助けになると考えられますが、学校・家庭の通信環境の確保、ソフトウェアやコンテンツの選定、運用を支援する人材の確保など、課題は山積しています。「一時しのぎの対応」で終わらせることなく、情報化、少子化を見据えた新たな学習環境の礎として、ICT が活用されていくことを期待しています。

学びの庭におじゃまします

コロナ禍で取材もままならずどうしたものかと思いつつ、テレビの再放送を見ていて「記事の再録」を思いつきました。でも再録だけではもったいない、ということで、現在の状況を受けて先生からのコメントもいただくことにしました。急な長期休校で大きな負担があったと考えられる「学校と子どもたち」に焦点をあて、2編を選びました。まずは東北学院大学・稲垣忠先生のお話を再度ご覧ください。

イナガキタダシ学びデザイン研究室：
https://www.ina-lab.net/
ツイッター：@slty022
近著：『学校アップデート―情報化に対応した整備のための手引き』
（堀田龍也・稲垣忠ほか著　さくら社）

社会変化に見合った新しい教育を

（2013. 4 第20号より再録）

情報機器で変わりつつある教室の様子

ICT（情報通信技術）の発達と普及は、私たちの社会を大きく変えました。今では生活も産業も、パソコンや携帯電話などの情報機器と、インターネットの接続環境なしには成り立たないと言えるほどです。

それでは学校教育はどうでしょう。私は大学院時代、東京都江東区と、石川県の能登半島の小学校をインターネットで結んで行なった交流学習に関わりました。お互いの顔を見ながら、子どもたちが米作りについて話し合います。都会の子たちは「農薬を使っていない安全な米が食べたい」と言いますが、生産地の子たちは、雑草や病害虫に苦労しながら田んぼで働いている家族の姿を見ています。活発な議論が行なわれ、それを通してお互いが理解を深めるという、非常に有意義な時間でした。

ところがそれから10年以上経った今でも、学校のICT化は、企業や家庭に比べて大きく遅れています。学校にパソコン室ができても、決して十分に活用されているとは言えません。そもそも小学校では、子どもたちのパソコン操作能力を向上させるよりも、ICT化によって通常の授業の質を向上させることの方が大切なのです。

授業では黒板に書くよりも、スクリーンに資料を映して見せた方が効果的な場合があります。かつてはスライドや、透明なシートの原稿を投影するオーバーヘッドプロジェクターが活用されていました。しかし今は、仙台市立の小学校の全ての教室に50インチサイズのデジタルテレビが設置されています。先生方にはパソコンが支給されていて、指導用のデジタル教科書で、教科書の写真を拡大して細部を見せたり、動画や音声を再生したりできるようになりました。例えば漢字の書き順の説明では、アニメーション表示によって、先生は自分で書かなくてすむ分、子どもたち一人ひとりを観察できるため、子どもたちの方に目を向けられることで、指導の効率が上がるのです。

実は現場の先生方にパソコン以上に歓迎されたのは「実物投影機」です。教科書や資料、子どものノートなどを、簡単な操作でそのままモニターに映して見せることができます。パソコンの苦手な先生でもすぐに使える、もっとも活用されている情報機器と言ってよいでしょう。

最近では「電子黒板」も使われ始めました。パソコン画面を映したプロジェクターのスクリーンに小さな機械を取り付けるだけで、専用の電子ペンがマウス代わりになるタイプが普及しています。さらに今は液晶タイプの電子黒板も実用化され、スマートフォンやタブレットパソコンのように、画面に触れて操作できるものも導入されています。

東北学院大学　教養学部　准教授（現・文学部教育学科　教授）
専攻＝教育工学・情報教育

稲垣　忠 先生

《プロフィール》（いながき・ただし）1976年愛知県生まれ。金沢大学教育学部卒業後、同大学院教育学研究科、関西大学大学院総合情報学研究科博士課程を修了。博士（情報学）。東北学院大学教養学部講師、准教授、教授を経て、2018年より文学部教授。著書に『授業設計マニュアル―教師のためのインストラクショナルデザイン』、翻訳書に『デジタル社会の学びのかたち　教育とテクノロジの再考』（ともに北大路書房）など。

情報機器の活用で子どもの興味・関心が高まる

ICTを導入すると子どもたちの学力が向上する、というデータは既に出ています。その理由として、授業で説明に要する時間が短縮されるなどの「効率」、説明が理解できる子の割合が増える「効果」、そして子どもの興味や意欲が高まる「魅力」の3つが挙げられるでしょう。

今後は生徒が一人1台ずつの情報機器を持ち、授業中だけでなく家庭学習で活用することも考えられていて、韓国やシンガポールでは既に実現しています。生徒が情報機器を使う学習の中で、まず効果が期待できるのが、計算練習などの基礎的な反復学習です。生徒一人一人の理解度や進度に合わせて適切な問題を提示し、計算を終えるとすぐに結果が出てアドバイスがもらえますから、意欲や集中力が高まります。そしてこうした学習は、情報機器を持ち帰ることができれば家庭でも可能です。

自分で情報を集めてまとめる、いわゆる「調べ学習」にも情報機器は最適です。学校にはない資料でも、インターネットの検索機能を利用すれば、すぐに見つかることが少なくありません。例えばNHKは「NHK for school」というウェブサイトで、動画を含む多くのデジタル教材を公開しています。先生が授業で見せることもできますが、もちろん生徒が自分で探し出して見ることもできるのです。

タッチパネルの電子黒板

従って「学校で習ったことを家庭で復習する」のではなく、「家庭で学んできたことを学校で確認したり深めたりする」という学習も可能で、内容によってはその方がむしろ効率的・効果的であると言えるのです。今までとは反対の流れですので、これは「反転授業」とよばれています。

学校のICT関連施設・設備は、ここ10年でだいぶ充実してきました。しかし取り組みには、自治体や学校ごとに差があるのが実情です。小学校と違い、仙台市立の中学校には大型のデジタルテレビは学校全体に10台程度で、教室で使うたびに運び込んで接続する必要があります。先生用のデジタル教科書を導入している自治体は、宮城県では2割程度です。最初に申し上げた通り、全体を見れば学校教育におけるICT化は決して十分ではなく、むしろ社会全体の進み方に対して、大きく遅れをとっていると言わざるを得ません。

さて、ここまでは情報機器を中心にお話ししてきましたが、「教育の未来」というテーマは、もちろんもっと大きな視野で考える必要があります。明治時代に確立した一斉授業による指導は、これまでは非常に有効でした。しかし日本の産業構造が変化し、サービスや情報、金融などの仕事に就く人が多くなった今では、知識量や計算力よりも、自分で課題を見つけ出して解決したり、独創的なアイディアを実現したりする能力が重視されていることは、皆さんもご存知のとおりです。

情報を活用する力を伸ばす新しい授業

そうした力を伸ばすためには、どのような教育が良いのでしょうか。実は、子どもがまず自分で学んで学校がそれをフォローするという先ほどの「反転授業」は、たとえ情報機器を用いなくても、大変有効であることが既に実証されています。情報機器の活用の問題とは別に、子どもが主体的に課題に取り組み、先生がそれを支援するという形こそが、新しい教育の可能性だと言うことができるのです。

自分で情報を選び取り、それを再構成して発表する授業は、子どもたちの表現力や活用力を大きく伸ばします。私は現場の先生方と共に、こうした形の授業の実践を積み重ねてきました。情報機器を用いる授業と混同されがちですが、私たちはこれを「情報活用型授業」と呼んで区別しています。実は2000年から学校に導入された「総合的な学習の時間」では、「生きる力」のひとつとして、情報活用能力の育成が目指されました。

国際的な学力比較がしばしば話題になりますが、これも現在では、知識量や計算力などより考える力を問う問題が主流です。既に日本の学習指導要領にもそれが反映されていることは、現在使われている教科書を見ればお分かりいただけるはずです。知識や情報が、主に学校と先生からもたらされていた時代とは違い、現代の子どもたちはテレビやインターネットを通じて豊富な情報にアクセスしています。教科の学びに積極的に「情報活用型授業」を取り入れながら、「総合的な学習の時間」を充実させていくことで、学校は子どもたちにとって、いっそう良い学びの場になれるはずです。

私たち研究者は、現場の先生方や情報通信関係の企業と連携しながら、様々な実践を積み重ねています。調べる、まとめる、発表するなどの活動に不慣れな子どもたちが、実例を見ながらそのスキルを学べるよう、「つくってつたえる＋あつめてまとめる　～情報活用を助けるWeb教材～」というウェブサイトも作りましたので、活用していただければ幸いです。

教育への情報機器の導入には予算が必要です。情報機器についての、教える側の知識や技能をどうやって向上させるかという課題もあります。しかしこれからの時代の働き方、暮らし方、そしてコミュニケーションのあり方を考えれば、教育をもう一度組み立て直す作業は不可欠だと思います。

今年の10月には仙台で「全日本教育工学研究協議会」の全国大会が開催される予定です。「未来を築く学びのリ・デザイン」がテーマで、先進校である仙台市立愛子小学校をはじめ県内8つの小中高校による新たな提案授業が行なわれるなど、多彩なプログラムが展開されます。教育関係者だけでなく、市民の皆さんにもぜひ注目していただきたいと思っています。

（取材＝2013年2月21日／東北学院大学 泉キャンパス4号館4階 教育工学実習室にて）

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.1　仙台の小中学校の教室にあるデジタルテレビのサイズは？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。久保順也先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびめめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2020年9月10日 当日消印有効

学びの庭におじゃまします

長期休校を経験し、様々な行事や部活の大会などが中止となる中でも健氣にがんばる子どもたち。
これからの健やかな成長を願うとき、私たちにできることはどんなことでしょうか。
Web 版でもよく読まれている「いじめを臨床心理学で考える」の宮城教育大学・久保順也先生に
コメントもいただいております。再録記事と合わせご覧ください。

いじめを臨床心理学で考える

（2017. 10　第38号より再録）

人の心に寄り添う臨床心理学

子どもの自殺が相次ぐなど、いじめが大きな社会問題になっています。「学校はなぜ防げなかったのか」「いじめられる側にも問題があるのでは」「いじめは大人にもあり、完全になくすことはできない」など様々な意見があって、解決の難しさはノーベル賞級です。

いじめはなぜ起こり、エスカレートするのでしょうか。まず加害者側の多くは「からかっただけ」「ふざけ合い」「遊びのうち」と思っていて、いじめと認識していません。また「相手が先にしたことへのはらいせ」で正当な報復だと思っています。だからいじめが止まらず、最終的に残酷な結果を招くのです。

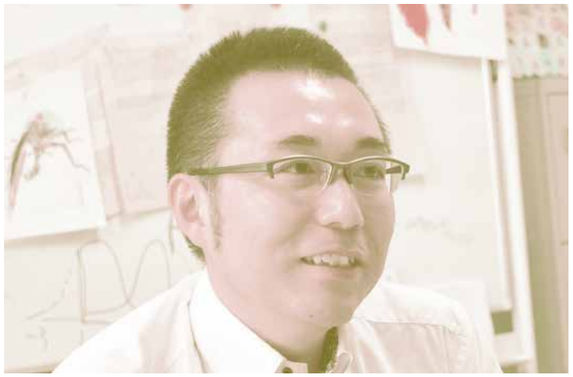
次に被害者側ですが、初期段階で「イヤだ、それはいじめだ」とはっきり言えば止まる可能性が高いのに、ほとんどの子どもにはできません。エスカレートするのは「友達間」の場合が多く、我慢してでも友達づきあいを続けたいからです。

いじめや不登校など、子どもたちが抱える問題は多様化しています。かつては学校が全てに対処していましたが、授業の他に生徒指導や部活動もあって、先生方は極めて多忙です。そのため現在では専門家らが学校に入り、先生方とチームを組んで子どもたちの育成にあたる仕組みが整いつつあります。

私は心理学の研究者ですが、カウンセリングや心理療法を行う「臨床心理士」でもあります。大学院生の時は、学校や児童相談所で相談業務に携わっていました。1995 年に始まったスクールカウンセラー制度によって、現在は県内ほぼ全ての公立中学校に心の問題の専門家が配置されています。小学校や高校へも導入されていて、その多くは私と同じ臨床心理士の有資格者です。

心理学の研究成果を、実際に悩み、苦しんでいる方々のために役立てようというのが、私の専門である臨床心理学です。そこから生まれたのが臨床心理士で、「治す」だけでなく、「寄り添う」ことや、本人の氣づき・自己回復を支援することを大切にしています。臨床心理士は民間資格ですが、大学院修了や医師免許取得等が受験資格条件で、以前は医療機関が主な活躍の場でした。教育機関の人員が不足しがちなこともあって、昨年 9 月には「公認心理師」という国家資格が創設されています。

また私は宮城県内 5 つの自治体の「いじめ防止対策調査委員会」の委員で、栗原市と女川町では委員長を務めています。いじめ問題に関する組織は自治体だけでなく学校にも設置されていますが、こうした組織に学校外の人材が入ることには、先生方の負担を減らすことに加え、地域全体で学校のあり方に関われるというメリットもあるでしょう。緊急時だけでなく年に 1 度か 2 度でも顔を合わせ、それぞれの視点から子どもたちの成長について意見を交わすことは、いじめだけでなく様々な問題を予防することにつながります。



宮城教育大学　教育学部　准教授
専門＝臨床心理学

久保　順也 先生

《プロフィール》（くぼ・じゅんや）1976 年岩手県生まれ。東北大学教育学部卒業。東北大学大学院 教育学研究科 博士課程前期課程修了。後期課程満期退学。宮城教育大学教育学部講師を経て、2010 年より現職。修士（教育学）。臨床心理士。宮城県内の自治体で「いじめ防止対策調査委員会」の委員を務め、栗原市・女川町では委員長。著書に『こころに寄り添う災害支援』、『事例で学ぶ 生徒指導・進路指導・教育相談：中学校・高等学校編 改訂版』、『同：小学校編』（いずれも共著）など。

いじめの予防に力を注ぐ

いじめ問題に関するこうした組織は、2013 年に成立した「いじめ防止対策推進法」に基づいて設置されました。この法律には子どもにいじめを禁じたり、保護者に子どもがいじめをしないよう指導したりし、また子どもをいじめから守るよう定めた条文もあります。しかしポイントはいじめを定義したことと、いじめの防止や解決に国・自治体・学校が責任を持つよう定めたことでしょう。第二条には、いじめとは「心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう」とあります。インターネット上の行為もいじめになるし、加害者側の意図にかかわらず、被害者側が苦痛を感じればいじめだという定義です。

広く定義されたことで、いじめを見逃さないことの大切さが関係者の間で共有されるようになりました。しかしインターネット上のやりとりは大人には見えにくく、苦痛を感じたという訴えへの対処も容易ではありません。学校や自治体によっていじめの発生件数が大きく違うのは、こうした理由もあるのです。大切なのは「いじめか否か」のラベル付けではなく、トラブルの存在を認め、より良い対応を考えることだと思います。

私たち大人は、傷ついた被害者の話をよく聞き、心の回復を支援しなければなりません。また起きてしまったトラブルは問題として取り上げ、子どもたちと一緒に解決に取り組むことで、子どもたちの成長の機会となるよう支援する必要があります。

もちろん事後的な対応だけでなく、予防的な対応にも力を注ぐべきです。加害者側に、いじめを楽しいと感じる氣持ちや、自分を守るためだという氣持ちがあることは否定できません。その意味では本能的とも言え、いじめの発生をゼロにすることは困難でしょう。それでも子どもに、いじめのエスカレートが招く結果の恐ろしさや、初期段階でいじめを拒否する大切さ、インターネットの正しい使い方・自己防衛の仕方を教えることは有意義です。

私は今年の 3 月まで仙台市教育委員会の、生徒指導問題等懇談会の委員長を務めていました。その場で「いじめがない、あるいは少ないクラスには、逆に何があるのでしょうか」と現職教員の皆さんに問いかけたところ、「規範が共有されている」「異学年同士の交流が盛ん」など多くの実例が挙がりました。いじめの問題だけに目を奪われず、むしろどのようなクラスを作ればトラブルの発生を抑えられるのか、と考えるべきでしょう。

ほめて自己有用感を育てる

心理学では一般に個人の心や性格をテーマにしますが、私はいじめなどのトラブルを、主に「関係」で捉えたいと考えています。小学生や先生方にアンケートを行い、統計処理をしたデータに基づいて、トラブルの実態を把握するというのが主な研究手法です。

本学は他の大学や協力団体と共に、文部科学省による認定を受けた「BP プロジェクト」に取り組んできました。これは学校や教育委員会のいじめ防止対策を支援するもので、本学は「特別支援教育といじめ」というテーマを担当しています。

たとえば ADHD（注意欠如多動性障害）などの発達障害を持つ子どもは、いじめの被害者になりやすいだけでなく「迷惑なことをした」「先に手を出してきた」と思われやすい存在でもあります（図 1 および図 2）。アンケートから浮かび上がってくるこうした実態を踏まえて、教育現場への提案や提言を続けていくつもりです。

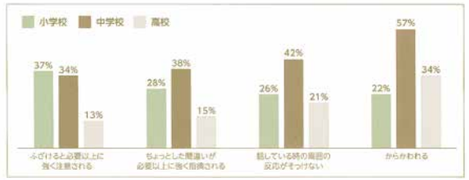


図 1:「特定の子」のいじめ被害の様態（「4　ややあてはまる」以上の回答割合。以下同様）

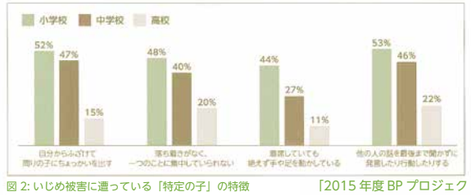


図 2: いじめ被害に遭っている「特定の子」の特徴　「2015 年度 BP プロジェクト」より

他国の取り組みも参考になります。今関心が高まっているのが、「子どものための哲学」や「探求の対話」という意味の「P4C（ピーフォーシー）」という試みです。ハワイは先進地の一つで、本学がハワイ大学と提携していることから、私も今年 8 月、現地の小中高で行われている授業を見学する機会を得ました。子どもたちが車座になって、正解が一つではない哲学的な問いについて考えを述べ合い、お互いを否定することなく思考を深めていく過程はたいへん興味深いものでした。この授業を通じて子どもたちは「クラスでは思ったことを言っていいんだ」「自分は否定されないんだ」という安心感を獲得していくのです。

家庭では、ほめて自己有用感を育てることが大切です。「自分は役に立つ存在だ」という自信があれば、他者をいじめる必要はなく、いじめられても自己否定に陥らずにすみます。現代では子どもが手伝うべき家事はほとんどないかもしれませんが、あえて仕事を作ってでも子どもに頼み、評価したり感謝したりするべきです。また「靴をそろえられるようになった」「開けたドアをちゃんと閉めた」といった小さな成長でも喜び、ほめる余裕が、大人の側にほしいと思います。

一方で、いじめられている子どもはしばしば、「悲しませたくないから」と親に事実を話そうとしません。良いところを見てほめるだけでなく、トラブルや辛い氣持ちも話せる関係を作るよう心がけてください。

そして大人自身が学びを楽しむことは、その背中を見ている子どもたちの成長にとってたいへん有意義です。「子どもたちをどうするか」だけでなく、自ら学び、さらには仲間とともに知見を共有したり披露し合ったりする機会を持っていただければと思います。

（取材＝2017年8月29日／宮城教育大学3号館4階 久保研究室にて）

懸賞

図書カードを当てよう！　まなびめクイズ　正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2　宮城教育大学がBPプロジェクトで担当しているテーマは？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。稲垣　忠先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mail のいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2020年 9 月10日 当日消印有効

これからの主な
「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

詳細は **Web 版に掲載**しております。http://manabinome.com/

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

開催中

小企画展
「海の生きものとわたしたち ～ 3.11 からの復興を目指して～」
～8月30日(日)　9:00▶16:45　無料　申込不要

場所　スリーエム仙台市科学館 3 階 生活系展示室　※入館券が必要
主催者　スリーエム仙台市科学館　問合先 TEL 022-276-2201

特別展
「GIGA・MANGA 江戸戯画から近代漫画へ」
～9月 6日(日)　9:30▶17:00　有料　申込不要

場所　東北歴史博物館　※発券は 16:30 まで
主催者　東北歴史博物館、河北新報社、tbc 東北放送、毎日新聞社　問合先 TEL 022-368-0106

7 JUL

ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展
7月14日(火)～9月 6日(日)　9:30▶17:00　有料　申込不要

場所　宮城県美術館　※発券は 16:30 まで
主催者　宮城県美術館　問合先 TEL 022-221-2111

企画展
「わらと生活」
7月18日(土)～11月 3日(火)　9:00▶16:45　有料　申込不要

場所　仙台市歴史民俗資料館　※入館は 16:15 まで
主催者　仙台市歴史民俗資料館　問合先 TEL 022-295-3956

第 19 回みちのくウイルス塾
〔※今年は要申込です〕
7月23日(木)～24日(金)　13:00▶17:00（24 日は 9:00▶13:00）　無料　要申込

講　師　高橋　英樹（東北大学農学研究科教授）他
場所　国立病院機構仙台医療センター 3 階 大講堂
主催者　仙台医療センター ウイルスセンター　問合先 TEL 022-293-1173

8 AUG

復興大学県民講座
復興の社会学：地域防災のための地理情報活用（オンライン講座）
8月 1日(土)　13:30▶14:30　無料　要申込

講　師　小田　隆史（宮城教育大学）
場所　オンライン開講
主催者　学都仙台コンソーシアム復興大学部会　問合先 TEL 022-305-3818

復興大学県民講座
復興の社会学：津波避難における自動車と道路の使い方を考える（オンライン講座）
8月 1日(土)　14:45▶15:45　無料　要申込

講　師　奥村　誠（東北大学）
場所　オンライン開講
主催者　学都仙台コンソーシアム復興大学部会　問合先 TEL 022-305-3818

復興大学県民講座
復興の社会学：災害後の人口の転出入とその特徴（オンライン講座）
8月 1日(土)　16:00▶17:00　無料　要申込

講　師　奥村　誠（東北大学）
場所　オンライン開講
主催者　学都仙台コンソーシアム復興大学部会　問合先 TEL 022-305-3818

【GIGA・MANGA 関連イベント】講演会 ②
「時代で見る近代漫画のカタチ」
8月16日(日)　13:30▶15:00　要申込

講　師　新美　琢真（川崎市市民ミュージアム　学芸員）
場所　東北歴史博物館　3 階講堂　定員 70 名
主催者　東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

参加体験記

「学び」イベントに行ってきました

以前ご投稿いただいたものの紙版に載せきれなかった参加体験記を改めてご紹介いたします。

■第 176 回オープンカレッジ
「大震災を生き延びる知恵 ～ライフラインと建築設備の地震被害と対処～」
講師：東北工業大学建築学科 教授　渡邉　浩文 氏
2009 年 2 月 18 日（水）東北工業大学一番町ロビー 4 階ホール

地震は身近に起こる災害なので、どんな話が聴けるか興味があり行って来ました。東北工業大学生のゼミも兼ねて行われた為、学生さんが多く一般の参加者は少なめでした。

大震災の時、都市機能の生命線を支えるライフライン（電気、水道、ガス、情報通信、交通）が途絶してしまいます。仙台市では、ライフラインの地震対策に力を入れているそうですが、現状はどうなのでしょうか。

解説の中で、工大生の方の卒論のテーマとして、築 30 年以上の建築設備（病院、老人ホーム、マンションなど）の耐震調査の結果や、安定地盤上と軟弱地盤上での危険な上水道配管（老朽管他）の被害予測の研究データが報告されました。古い建物の設備機器には不安な箇所も多く見られ、軟弱地盤上の危険管のある地域では給水途絶の恐れがあることが分かりました。現状では、まだまだ対策は不十分であり不安を感じました。

大震災を生き延びるには？

過去の被災例からも水道の復旧には時間がかかっていることから、水の確保が最も重要になってきます。最低でも 3 日間は生き残れるための水は必要です（一人一日 3 リットル× 3 日間）。「水は生きていくためには必要不可欠なものであり、蛇口を回せば当たり前のように水が出る。この有り難さを意識して生活していないのが現状である。」と言っていた渡邉先生の言葉は印象に残りました。

宮城県沖地震が 99 パーセントの確率で起こると言われてから 5 年が過ぎました。地震に対する必要最低限の備えは、やっておくべきだと思いました。　（仙台市泉区・男性　H.M.）

■長寿社会を楽しむためのお口
第 1 部「歯から起きる全身の病氣」
講師：東北大学大学院歯学研究科　口腔診断学分野 講師　飯久保正弘 氏
第 2 部「お口の中をのぞいて見ましょう」
講師：東北大学大学院歯学研究科　予防歯科学分野 教授　小関　健由 氏
2009 年 6 月 6 日（土）13：00～13：45、14：00～14：45　宮城・仙台口腔保健センター

6 月 4 日からの歯の衛生週間にちなんで、「歯と口の健康づくり市民のつどい」にて展示コーナーや健康チェック、体験コーナーと盛況な会場をまわり東北大学市民公開講座に足を運びました。

先生は「少し怖い話をしますよ」と前置きして実例の紹介となりました。

手足が痛くてモノが握れない、そして車イスでの移動を余儀なくされた患者さん。その原因には右下奥歯からの膿が原因で反応性関節炎の診断（軟骨細胞に作用）。または前歯の詰め物が取れたのを放っておいた結果、過剰なアレルギー反応から掌蹠膿疱症という皮膚の角質細胞を攻撃する病氣に至ったケースなど、一見歯や口とはまったく関係性のない病氣でも症状からたどっていくと歯に原因があることが意外と多くみられる。その他にも不明熱やほっぺたに膿がたまっての蓄膿症、歯周病菌が血管から心臓に入り動脈硬化を引き起す、歯周病菌から血糖値が上がり糖尿病に至るなど数知れない症例でした。歯についた白いネバネバを顕微鏡で覗いた映像が紹介され、そこには元気に泳ぐバイキンのかたまりが……唖然としました。

成人期、高齢期の「口腔ケア」が全身の健康につながり命を守る重要なカギとなることを痛感しました。　（仙台市太白区・主婦 A）

「学び」イベントに参加したら感想を書こう!

読者の皆様が参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。
掲載採用させていただいた方のうち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈!
ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント!
※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。
■ 投稿方法　はがき、FAX、E-mail、Web版投稿フォームにて受付。
■ 投稿先　「まなびのめ」編集部　※詳細は最終ページをご覧ください。

読者の声

Voice Park
読者と編集部のキャッチボール

第 48 号　水

2 月 22 日、宮城県美術館で開催されました「アイヌの美しき手仕事　柳宗悦と芹沢銈介コレクション」を観て参りました。一部の展示品は写真撮影が可能でした。図録とも違い、大変満足して帰りました。氣がつけば 3 時間も滞在しておりました。その後はモチロン、レストランで遅い昼食を楽しんで帰りました。「まなびのめ」の情報のおかげです。いつもありがとうございます。
（仙台市宮城野区・82 歳）

編：学びのお役に立てて本当に良かったです。「3 時間も滞在」というところに興味・関心の深さが伝わってきます。柳宗悦と芹沢銈介、ご両名ともその生涯と業績には尽きない魅力がありますね。

次号の「児童文学」が楽しみです。漢字で「児童文学」と書くとかしこまった感じがしますが、読むと楽しいです！　ハンプティダンプティを子どもの頃に見て（イラストで）強烈な印象を持ったことを思い出しました。　（仙台市青葉区・47 歳）

編：私事ではございますが、『赤毛のアン』が好きで、カナダのプリンスエドワード島を旅したことがあります。物語のまんま美しいところでした。子どものころに読んで感動したものに、大人になってもかなり影響を与えられるものですね。

「児童文学」は新型コロナウイルス感染症の影響により第 50 号へ持ち越しとなりました。楽しみにしていただいておりました皆さまには申し訳ないことですが、次号をお待ちください。

「あなたが病気になってしまったとき、お子さんにどのように伝えますか？」是非参加したいのですが、仕事で難しそうです。web 受講できたらいいのですが…。　（仙台市青葉区・39 歳）

編：大学の講義もオンライン授業が中心になったように、「学び」イベントの Web 公開も進む可能性はありますね。ライブでなくても、録画したものを公開しているケースもあるでしょうから、ぜひいろいろなコンテンツを探して見てみましょう。

大崎耕土に関心があります。ふゆみずたんぼや酒米としての研究 etc…。古川農業試験場を中心にいろいろ活動があり、今後が楽しみですね。　（仙台市宮城野区・69 歳）

編：「ふゆみずたんぼ」知らなかったので調べてみました。冬季の田んぼにマガンが飛来する沼のはたらきをさせるとは斬新な取り組みですね。マガンが雑草を食べてくれて除草剤要らず、糞も肥料になる、と田んぼにとってもいいことばかりで奥が深いです。

その他のお便りと編集部からのコメントは Web 版でご覧いただけます。

第48号 まなびのめクイズの正解発表!!
「まなびのめ」第48号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

Q.1　大崎耕土は、国連食糧農業機関によって何に認定された？
答え　世界農業遺産

Q.2　微生物が有機物を分解することを利用して水を浄化させる方法を何という？
答え　活性汚泥法

図書カード 1,000円分　図書カード 1,000円分　図書カード 1,000円分

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から**抽選で3名様に図書カードが当たります**ので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

「まなびのめ」配色法：襲色目（かさねのいろめ）
第 49 号・夏／「破菖蒲」（ha syōbu）

これからの主な「学び」イベント
詳細は **Web 版に掲載**しております。http://manabinome.com/

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

8 AUG

復興大学県民講座
復興の科学技術：構造ヘルスモニタリングシステムの役割と実証について（オンライン講座）
8月29日(土)　13:30▶14:30　無料　要申込

講　師　薛　松濤（東北工業大学）
場所　オンライン開講
主催者　学都仙台コンソーシアム復興大学部会　問合先 TEL 022-305-3818

復興大学県民講座
復興の科学技術：平時から向き合う災害廃棄物処理（オンライン講座）
8月29日(土)　14:45▶15:45　無料　要申込

講　師　吉岡　敏明（東北大学）
場所　オンライン開講
主催者　学都仙台コンソーシアム復興大学部会　問合先 TEL 022-305-3818

企画展「わらと生活」関連講座
「藁と生活―藁の文化のあたたかさを伝えよう―」
8月30日(日)　13:30▶15:00　有料　申込不要

講　師　宮崎　清（千葉大学名誉教授）
場所　仙台市歴史民俗資料館
主催者　仙台市歴史民俗資料館　問合先 TEL 022-295-3956

9 SEP

2020 年度 ジェンダー論講座（全 11 回）
9月 5日(土)～2月27日(土)　13:30▶15:00　有料　要申込

講　師　遠藤　恵子（東北学院大学名誉教授）他
場所　エル・パーク仙台　セミナーホール他　定員 20 名
主催者　（公財）せんだい男女共同参画財団　問合先 TEL 022-268-8300

復興大学県民講座
復興の社会学：東日本大震災の復興を考える（オンライン講座）
9月 5日(土)　13:30▶14:30　無料　要申込

講　師　田中　重好（尚絅学院大学）
場所　オンライン開講
主催者　学都仙台コンソーシアム復興大学部会　問合先 TEL 022-305-3818

復興大学県民講座
復興の生活構築学：コミュニティ創成に向けた社会改革事業の在り方（オンライン講座）
9月 5日(土)　14:45▶15:45　無料　要申込

講　師　風見　正三（宮城大学）
場所　オンライン開講
主催者　学都仙台コンソーシアム復興大学部会　問合先 TEL 022-305-3818

復興大学県民講座
復興の生活構築学：三陸地方のくらしのかたち ―変わるものと変わらないもの―（オンライン講座）
9月19日(土)　13:30▶14:30　無料　要申込

講　師　大沼　正寛（東北工業大学）
場所　オンライン開講
主催者　学都仙台コンソーシアム復興大学部会　問合先 TEL 022-305-3818

復興大学県民講座
復興の生活構築学：生業景―くらしのかたちのリ・デザイン―（オンライン講座）
9月19日(土)　14:45▶15:45　無料　要申込

講　師　大沼　正寛（東北工業大学）
場所　オンライン開講
主催者　学都仙台コンソーシアム復興大学部会　問合先 TEL 022-305-3818

復興大学県民講座
復興の生活構築学：復興キュレーション ―ミュージアム思考からの復興まちづくり―（オンライン講座）
9月26日(土)　13:30▶14:30　無料　要申込

講　師　加藤　幸治（武蔵野美術大学）
場所　オンライン開講
主催者　学都仙台コンソーシアム復興大学部会　問合先 TEL 022-305-3818

復興大学県民講座
復興の経済学：どこまで進んでいるの？ 津波被災地の農業・農村復興（オンライン講座）
9月26日(土)　14:45▶15:45　無料　要申込

講　師　伊藤　房雄（東北大学）
場所　オンライン開講
主催者　学都仙台コンソーシアム復興大学部会　問合先 TEL 022-305-3818

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略